

田村 卓也

平成 25 年度「卓越した大学院拠点形成支援補助金」事業 研究成果レポート

1. 事業実施の目的：ケニア国内における調査許可の取得および予備調査の実施
2. 実施場所：ケニア共和国ナイロビ市、モンバサ市、コースト州クワレ県ワシニ島
3. 実施期日：平成 26 年 2 月 8 日（土）から 3 月 6 日（木）
4. 成果報告

#### ●事業の概要

研究を進める上で必要な調査許可の取得と、今後の調査計画を策定するために必要な基礎資料収集を目的とした予備調査を実施した。

#### 1 調査許可の取得

ケニア国内において学術的な調査を行う場合、研究者はケニア政府から調査許可証を事前に取得することが義務づけられている。また、許可証の申請を行うためには、研究者はケニア国内の研究機関へと所属することが必須条件とされる。今回は、こうした許可証の取得に関する諸手続を行った。

手続きにあたっては、日本学術振興会ナイロビ研究連絡センターからの情報提供や、推薦状の発行といった協力を受けた。今回はケニア国内での所属として、ケニア国立博物館内に設置され、スワヒリ海岸における言語・文化の研究を行っている東アフリカスワヒリ文化研究所(RISSEA・本部：モンバサ市)への所属学生という身分を得た上で、これからの調査研究計画を国家科学技術評議会(NCST)に提出し、審査を受けた。結果、計画は承認され、今後三年間有効となる調査許可証が発行された。

#### 2 予備調査

今回の調査は、今後実施予定の長期調査の計画を立案する上で必要な、調査地の生計維持活動に関する基礎的な情報の収集と、地元関係者への協力要請を目的として行われた。

調査地となるワシニ島は、ケニア最大の港湾都市であるモンバサから南へ約 70 キロ、タンザニアとの国境付近に位置する小島である。今回の滞在中には調査地対岸のシモニに開館したばかりのシモニ奴隷博物館(2014 年 2 月開館、ケニア国立博物館が運営)の学芸員や、ワシニ村村長、地元の漁師や海産物仲買人、船大工などと面会し、今後の協力を要請した。

滞在中に行った予備調査では、漁撈を中心として島の生計維持活動に関する基礎的な情報の聞き取りや、漁に同行しながらの参与観察を進めた。ワシニ島の周囲はサンゴ礁が発達し、ケニア国内においても有数の漁場となっている。島の南海域には、1970 年代にキシテムプングティ海洋公園が指定され、域内での漁撈が制限される一方、毎日数百名の観光客がドルフィンウォッチングやスノーケリングを目的とした日帰りツアーに参加している。島周辺で獲れた海産物は、島内で自家消費されたり、対岸(大陸側)の魚市場に出荷されるほか、こうした観光客の昼食として大量に消費されている現状を確認した。

島の周辺で行われている主な漁法としては釣り漁やカゴ漁のほか、マングローブ林でのカニ漁や地先でのタコ漁、海藻採集などが挙げられる。漁撈を主たる収入源とする漁民以外にも、多くの人びとが日常的にこうした漁撈を行っているが、そこには漁の目的や自らの経済資本などの違いに起因すると思われる漁場、漁法、漁具、漁獲対象の差異がみられた。また、こうした漁撈に関する情報が日常的な会話の中で交換され、島民のなかで共有されているような状況もみられた。

●本事業の実施によって得られた成果

今回の事業では、調査許可証の取得という目的の達成に加え、地元の方々の協力のお陰で、当初想定していたよりも充実した調査を行うことができた。今回得られたデータは、今後実施予定の長期調査の計画を策定する上で、大きな手助けになると思われる。